

高齢者の食事と嚥下
確認テスト

第6回 食事の姿勢や介助 食事介助編

問題1

食事介助の説明で間違っているものを選びなさい。

- ①麻痺のある方は健側から介助を行うのが基本である。
- ②横に座り、同じ目線で介助を行う。
- ③食べ物を口に入れる際は、下の方から口元へ持っていくと顔が前傾になりすぎてしまい飲み込みずらいため、少し上から介助を行う。
- ④立って介助を行うと、利用者が介助者を見上げて顎があがってしまうため、誤嚥のリスクが高くなる。
- ⑤右麻痺で麻痺側に傾きがある方の介助を、右側に座って行った。

問題2

一口量が多いといけない理由は何か？

問題3

口に食べ物を運ぶペースとして大切なポイントは？

問題4

「ゴクン」と飲み込んだ事を確認する際に目安となるものは何か？

問題5

「空嚥下」とは何か簡単に説明しなさい。

高齢者の食事と嚥下
確認テスト（グループワーク）

第6回 食事の姿勢や介助 食事介助編

グループワーク 1

ゼリーやトロミのついたお茶などを用意し、2人1組で交互に介助し合う。

- ①立って介助を行う場合と座って介助を行う場合
- ②一口量が多い場合と少ない場合
- ③誤嚥予防の方法を試してみる
空嚥下・交互嚥下

グループワーク 2

介助方法に問題のある利用者をあげカンファレンスを行う。

高齢者の食事と嚥下

確認テスト (解答)

第6回 食事の姿勢や介助 食事介助編

問題1

食事介助の説明で間違っているものを選びなさい。

- ①麻痺のある方は健側から介助を行うのが基本である。
- ②横に座り、同じ目線で介助を行う。
- ③食べ物を口に入れる際は、下の方から口元へ持っていくと顔が前傾になりすぎてしまい飲み込みずらいため、少し上から介助を行う。
- ④立って介助を行うと、利用者が介助者を見上げて顎があがってしまうため、誤嚥のリスクが高くなる。
- ⑤右麻痺で麻痺側に傾きがある方の介助を、右側に座って行った。

③

食べ物を口に入れる際は、下の方から口元へ持っていくと、自然に視線が下向きになり顎も引けるため飲み込みやすくなる。

問題2

一口量が多いといけない理由は何か？

喉を通過するのが困難になる

食べ物が重力で落ちやすくなり詰まる可能性が大きくなる

食道に入りきらずあふれて気管に入って危険性がある

問題3

口に食べ物を運ぶペースとして大切なポイントは何？

咀嚼して飲み込んでから次の一口

問題4

「ゴクン」と飲み込んだ事を確認する際に目安となるものは何か？

喉仏が上下する動き

問題5

「空嚥下」とは何か簡単に説明しなさい。

一口食べた空のスプーンなどを口に入れ、食べ物なしでゴクンと嚥下すること